

2020年10月7日

自民党看護問題小委員会御中

要望書

日本看護職副院長連絡協議会より下記を要望させていただきます。

1. 新型コロナウイルス感染症が発生し、様々な病院および施設等が影響を受けただけでなく、看護学生を育成する看護系大学や各種学校においても同様です。臨地実習は、受け持ち患者の看護過程の展開により、理論と実践の統合を図る学びだけではなく、チーム医療において看護師の果たす役割や多職種とどのように協働するのかを具体的に学ぶ機会となります。同時に、就職後、学生時代と社会人としての乖離が生じることなく、社会に適応するための基礎力を学ぶ大切な経験の機会を得ます。

今後も新型コロナウイルス感染症対策は、病院・施設等で継続して取り組まなければならない重要課題であり、臨地実習の経験がない看護師の育成を、今まで以上の時間をかけ丁寧に対応が必要があり、現場においては大きな課題となります。

この現状に対し、リモート実習では経験できなかったことを就職後に教育・指導することに対し、現場の看護師に掛かる時間的負担も考慮し、国は予算化を図り対処することを、ご検討頂きたいと思っております。

2. 新型コロナウイルス感染症発生は、看護部門において看護師育成のための研修にも影響しOJT/Off-JTの内容だけではなく、方法にも変化を及ぼしています。

eラーニングを活用するにしても、そのシステムが整っていない施設もあれば、自病院で新たなシステムを構築し、積極的にICTを活用した教育方法を創出している所もあります。

新たなシステムを創出し、今の社会に適応しながら卒後教育の充実に向け取り組んでいる病院に対しての予算化をお願いしたいと思います。同時に、創出されたシステムを活用し、システムが整っていない病院に対し支援を行うための予算についてもご検討下さい。

以上、宜しくお願い致します。

日本看護職副院長連絡協議会
会長 田淵 典子